



おおらか さわやか きわやかな人を育む大崎の教育

問 教育委員会 ☎ 476-1111 (401)

◆地域が育む『かごしまの教育』県民週間について

鹿児島県では、全県的に毎年11月1日～7日の期間を「地域が育む『かごしまの教育』県民週間」として設定しています。これは、この期間に多くの県民の方々が学校開放等の行事に参加し、学校や子どもたちの様子を見ていただくことにより、これからの『かごしまの教育』について考えていただくとするものです。

本町の小中学校においても、この期間を『大崎町学校参観週間』と設定し、数多くの町民の皆様においでいただくことができました。

来年度も同じ時期に学校参観週間を設定いたしますので、お誘いあわせの上、ぜひ学校にお越し下さい。



まぶい窓おしの庭 NO.13

言葉一つで子どもは伸びる

中沖小学校 校長 島子 孝一

「ほら、あんたはやればできるがね。」

母親が愚息を褒めるときよくかけてくれた言葉です。この言葉のおかげでどれだけ励まされ、自信を抱けるようになったことか。

子どもは期待されると、期待された通りの成果を出す傾向があるとされています。

小学生だったイチローは、練習に付き合う父親から「イチロー、いいぞいいぞ、大丈夫だ。この調子でがんばれば、きっとプロになれるぞ。」と、いつも励まされ続けたそうです。

父親が我が子に期待の眼差しを向け続けた結果はどうか。イチローが本場アメリカの大リーガーとして活躍中なのは御承知の通り。

さて、これとは逆に「お前にできるわけがない。」「あなたは何回言ってもダメな子ね。」などと親が言っていたらどうなるでしょう。

親からけなされて育ち、自分が期待されていないと感じた子は「どうせぼくなんか。」と気力が失せ、完全に自信を失ってしまいます。

本来、自己が確立していない子どもは、みな自分に自信がなく、不安なのです。

だからこそ、「あなたはここがすごいね。」「ここをがんばれば必ずできるようになるよ。」などと、ポジティブな言葉をかけられると、自分の可能性を信じることができ、自分を伸ばしていこうという意欲も湧いてくるのです。

元は同じ程度の素質の持ち主だったのに、親や指導者の声のかけ方一つで、その素質の生かし方が大きく変わってしまうのかも――。そう考えると、「たかが言葉一つ」とは言えません。言葉一つで、人は変わるのです。

家庭でも学校でも子どもをポジティブに見て、自信を持たせる言葉のかけ方を意識していきたいものです。



私は、いこいの森が定番よ！

私は、いつも益丸海岸に行ってるよー。



今年は、初日の出が見れるかしらー。